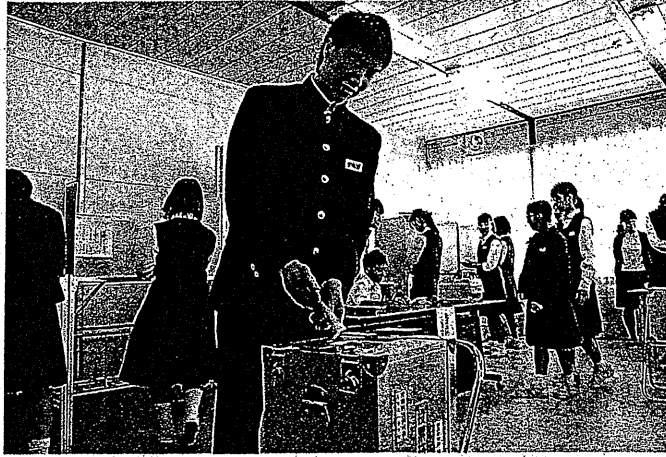


衆院選を想定した投票を体験する生徒
＝21日、福井市明道中



清き一票が生徒投じる

福井・明道中 選挙副読本使い授業

県選管などが作製する選挙啓発副読本を活用した公民の授業が21日、福井市明道中で行われた。3年1組の28人は衆院選を想定した模擬投票に参加。教員演じる候補者が掲げた消費税や教育に関する選挙公約を見比べ、「清き一票」を投じた。若者の投票への関心を高めようと、県選管と県明るい選挙推進協議会は昨年度、制度を解説する副読本を作製し、県内全ての中学3年生に配布した。各校が副読本を授業

で活用しているという。本年度はインターネットによる選挙運動などを盛り込み、改訂した。生徒は、立候補に供託金がかかることなど副読本のクイズに挑戦。模擬投票の前には、教員3人による「政見放送」を視聴し、投票行動を考えた。投票用紙の交付機、記載台、投票箱といった実際に使う設備で投票を体験した。開票も行い、小選挙区の当選者を確認、比例代表の議席も割り振った。

西村匡己君は「子育て政策が充実している党に入れたい。20歳になったら必ず投票する」と話していた。

福井・明道中で公開授業



模擬投票で選挙を体験する生徒たち＝福井市明道中学校で

模擬投票し選挙理解

県選管副読本を活用

県選管が製作した選挙啓発の副読本を使った公開授業が21日、福井市文京二丁目

の明道中学校で開かれた。生徒たちは模擬投票などを通して選挙の仕組みを理解した。

県選管では昨年度に副読本を作成したが、本年度に入ってからネット選挙などに関する項目などを追加して中学三年生が選挙について学ぶ時期（十一月）の前にリニ

ューアル。九月に完成していた。（笠松俊秀）この日の公開授業では三年生二十八人が副読本を手に授業を受け、県選管の職員がゲストティーチャーとしてサポート。立候補の際には「供託金が必要」という条件やネット選挙でできることなどを学んだ。実際の投票箱などを使った模擬投票も行われ、生徒たちは興味深げに投票し